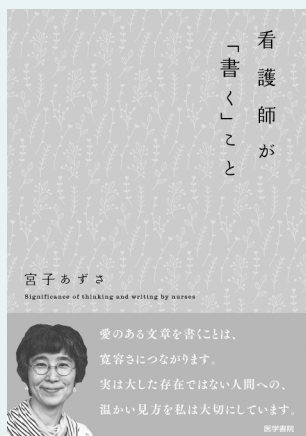


今月の

5冊



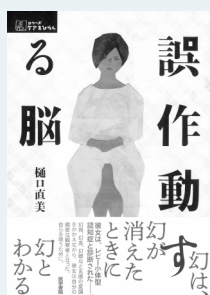
看護師が「書く」こと

宮子あずさ＝著
本体1800円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600

看護師として言葉を磨き、社会に発信してきた著者による、看護と著述をめぐる思索の旅。看護の現場で出会う「ひとの営みの不可思議な魅力」を愛する文章で表現してきた著者は、看護という仕事にはまだまだ言語化されていない魅力的な領域が残っているという。看護の魅力を「書く」ことで表現したいと思う人は必読の指南書。

誤作動する脳

樋口直美＝著
本体2000円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600



「レビー小体型認知症」と診断された女性の頭の中では何が起きているのか。本書では、脳の誤作動により引き起こされる記憶障害、幻覚、時間意識の低下などの症状の体験を、正確に表現した言葉でリアルに伝える。幻視、幻臭、幻聴など五感の変調を抱えながら達成した圧倒的な当事者研究は、ケアする人の拠り所ともなる。

患者の声から考える看護

渡邊順子＝著
本体2000円＋税
医学書院 ☎03-3817-5600



患者さんの望む看護は難しい？コミカルな4コマ漫画で、ベテラン看護師「ナースレンジャー」が「看護師がしたい看護」と「患者さんが求めている看護」のズレを分かりやすく示し、看護の勘どころを的確にアドバイスする。新人やキャリア初期ナースにお薦めの1冊。最後まで読むと分かるナースレンジャーの正体にはビックリ!!

「最高の死に方」はそんなに難しくないみたい

刑部登志子＝著
本体1500円＋税
総合法令出版 ☎03-5623-5121



少子高齢化が進む中、「最期をどう迎えるか」に向き合うことは一層大切になっている。訪問看護師として2000人の最期に寄り添った著者が自らの経験や思索の中から見出したのは、老後や死という現実から目を背けずに前向きに捉え直す姿勢の大切さだった。自身が人生でなすべきことを考える生き方は、人生そのものを豊かにする。

認知症介護と仕事の両立ハンドブック

角田とよ子＝著、須貝佑一＝監修
本体1500円＋税
経団連出版 ☎03-6741-0043



突然やってくる認知症介護。本書では、重要なのは「仕事は続ける」という介護者の決意だとし、認知症の基礎知識、公的支援の仕組み、認知症予防や患者の言動への受け答えなど、介護と仕事を両立するための具体的な方法を詳述。「介護をプロジェクトに」をキーワードに、両立生活を続けるための実践的ハンドブック。